

# 婚姻数・出生数の動向

2005年10月に初の専任の少子化担当大臣（猪口邦子衆議院議員）が就任して以降、婚姻数は増加傾向にある。  
 2006年の出生数は年間で1,122,278人となり、2005年を32,041人上回って出生数の減少傾向は2006年には反転した。  
 2006年の出生数の伸びは1994年に51,672人増加して以来12年ぶりの大きな増加である。  
 この結果、2006年の人口は26,885人の自然増となり、戦後初めて人口減少を記録した2005年から回復した。

